

2013年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	電気通信工学科						
科目名	電気回路Ⅱ(集中)						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年後期		
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)／必修科目(電気エネルギーコース)／選択必修科目(情報システムコース)						
担当者	原谷 直実						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦波交流回路の定式化から定常解析法までを学び、具体的回路が解析できる。(A6,A7) ・受動素子の抵抗・インダクタ・キャパシタや回路の特性をインピーダンスやアドミタンスで表現できる。(A7) ・電圧や電流の実効値や位相の関係をベクトル表示し、解析できる。(A7) ・交流の電力や力率が計算できる。(A6,A7) 						
日程と内容	第01回(09/16)：正弦波と交流抵抗回路、電力、平均電力、実効値 第02回(09/30)：交流回路素子(インダクタとキャパシタ)、交流回路の定常解析 第03回(10/07)：フェーザ法 第04回(10/21)：ベクトル図と交流電力 第05回(10/28)：単位認定試験 第06回(11/11)：単位認定試験 第07回(11/18)：単位認定試験 第08回(11/25)：単位認定試験 第09回(12/09)：単位認定試験 第10回(12/16)：単位認定試験 第11回(12/23)：単位認定試験 第12回(01/20)：単位認定試験						
成績評価基準	定期試験	100%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計			100%	
授業到達目標の達成度	再履修科目なので、通常と同じように授業、演習、試験と進めたのでは、効果がない。最初の4回で復習をし、単位認定試験を繰り返す手法を用いた。その結果、61%が合格できた。不合格者の中には、単位認定試験を1回しか受験していないような場合も含むので、繰り返し問題を解くことで、確実に授業到達目標を達成している。一部、すべてまたはほとんどの試験を受験したにもかかわらず不合格になった学生もいるが、彼らについても成長の跡は見られる。3年次前期で通常授業を再履修し、それでも合格できなければ3年次後期にこの科目をもう一度履修する。こ						
反省点	再履修科目の実施方法として、今の手法を変更する予定はない。再履修科目で真面目に出席したにもかかわらず不合格になる学生は、理解の障害となっている箇所を明確にするために、個別の指導も必要かと思われる。						
来年度の計画	再履修科目の実施方法は、今年度同様とする。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の平均値(8.6)はともかく、理解度(3.9)を改善する余地はある。ただ、理解の障害となっている箇所は個人で異なるので、その分析が必要である。						
履修登録者数	69名	定期試験受験者数	57名	合格者数	35名	合格率	61%